

# 2017 年度機器・分析技術研究会 in 長岡参加報告

三重大学 工学部・工学研究科 技術部

田村雅史

tamu\_m@chem.mie-u.ac.jp

## 1. はじめに

2017 年度機器・分析技術研究会が平成 29 年 8 月 29 日（火）～30 日（水）、新潟県長岡市にて開催された。三重大学からは著者が発表参加したので報告する。

## 2. 開催概要

主催：2017 年度機器・分析技術研究会 in 長岡実行委員会

会場：アオーレ長岡、長岡技術科学大学

期間：平成 29 年 8 月 29 日（火）～30 日（水）

参加数：54 機関、231 名

発表件数：口頭発表 18 件、ポスター 63 件

日程：

1 日目 特別企画 技術交流サロン「やってみせて・・・山本五十六と安全対策」

特別講演 「南極氷床深層掘削とアイスコア分析」

ポスター発表

2 日目 口頭発表

## 3. 講演内容等

1 日目は、市民ホール、研修・会議施設、市役所施設が一体となったアオーレ長岡を会場として午前中に特別企画の技術サロン、午後から特別講演とポスター発表が行われた。

技術交流サロンでは、長岡技術科学大学大学院の芳司俊郎先生による、失敗と安全対策に関する講演を聞き、様々な安全装置を体験できる装置を体験できる場が設けられた。

特別講演は、長岡技術科学大学学長の東信彦先生による「南極氷床深層掘削とアイスコア分析」の講演であった。南極の氷床を深く掘り下げる技術的な難しさや様々な試みなどとともに、南極ならではの苦労や楽しみも交えての講演で非常に面白く、興味深いものであった。

ポスター発表においては、三重大学からは、「三重大学における共同利用機器の管理・支援体制強化の取り組み」の内容で著者が発表した。他機関の発表では共同利用機器の運用に関する発表や動画を利用した機器利用マニュアル整備などが興味深く、詳しく聞くことができた。

2 日目は、長岡技術科学大学において口頭発表が行われた。発表の中には機器分析における技術的な試行錯誤、陥りやすいミスについての発表や、機器操作や薬品管理上の安全対策の取り組みなど、業務に活かせるようなものがあり、参考になった。

## 4. 終わりに

機器・分析技術研究会は参加している機関、人数も多く、他大学等の取り組みや情報を知る貴重な機会である。ここで得られた経験、情報を業務に活かしていくと共に、継続して参加できるように努めていきたい。